令和４年度

教職課程
自己点検評価報告書

美作大学短期大学部
幼児教育学科

令和５年３月

美作大学短期大学部　教職課程認定学部・学科一覧

・美作大学短期大学部（幼児教育学科　幼稚園２種）

大学としての全体評価

美作大学短期大学部は大正 4（1915）年に発足した津山高等裁縫学校を始祖とする美作学園が設置する高等教育機関であるが、当時から本学園は小学校裁縫専科正教員を、その後、尋常小学校准教員を養成した歴史を有している。これは、建学の理念に基づき「知識・技能を身に付けた専門性をもった人材育成」を大高等教育機関の使命として標榜していたからである。

昭和 26（1951）年に開学した美作短期大学は、改組を重ねて令和 4（2022）年現在、美作大学短期大学部の幼児教育学科で幼稚園教諭二種免許状が取得可能な教職課程が設置されている。

本学における教職課程については、学長（副学長（教育））の統督のもと、教務部の下部組織として教職課程センターが設置され、規程に則り、教職課程の改善および円滑な運営にあたっている。同センターは同一法人内の大学、短期大学、大学院の教職課程を統括する形となっている。

教職課程センターは学長指名によるセンター長のもと、教職課程ならびに「教職に関する科目」に係る教育の充実、課程認定の申請、教員免許更新に係る講習の企画・立案などに当たっている。本学における教員養成は、カリキュラムに関しては教務委員会と部科（課）長会議の議を経て教授会が、講師の任免については部科（課）長会議が、教育実習や介護等体験、学外ボランティア、免許取得の手続き等の指導については各学科が議決機関として責任を負う形となっている。また、教職課程センターには運営に関する協議機関として委員会が設置されており、委員会の構成はセンター長（副センター長）をはじめ、教職課程を有する各学科・研究科から委員が選出されている。

短期大学部における教職課程履修者は、概ねの学生が幼稚園教諭二種免許を取得する。卒業時に得られる資格として保育士も同時に取得するため、就職先は保育園が多いが、教員免許が必要な認定こども園への就職も認められる。岡山県北地域での幼保人材を育成することは本学の地域貢献に対する重要な課題であり、現状ではその任を果たしていると自負している。このことを踏まえ、短期大学部における教職課程は創立当時から本学園が標榜している「知識・技能を身に付けた専門性をもった人材育成」の実現に寄与していると考えている。

なお、今回の自己点検・評価は一般社団法人「全国私立大学教職課程協会」の「教職課程自己点検評価基準（令和 4 年度版）」の評価項目を参考に実施している。

美作大学短期大学部

学長　鵜﨑　実

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色 ..... - 1 -

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価 ..... - 2 -

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み ..... - 2 -

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援 ..... - 5 -

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム ..... - 8 -

Ⅲ．総合評価 ..... - 11 -

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス ..... - 11 -

Ⅴ　現況基礎データ一覧 ..... - 12 -

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１　現況

（１）　美作大学短期大学部 幼児教育学科

（２）　所在地：岡山県津山市北園町 50

（３）　学生数及び教員数

（令和　年５月１日現在）

学生数：　教職課程履修 85 名／学部全体 85 名

教員数：　教職課程科目担当（教職・教科とも）17 名／学部全体 19 名

２　特色

幼児教育学科では、昭和 40 年に幼稚園二種の教員養成課程を設置した。以来、50 年以上にわたって幼稚園教諭を育成している。

現代においては、社会の著しい変化や少子化の進行、子育ての孤立感や負担感の増加など、子どもを取り巻く環境や子育ても大きく変容し、子ども・子育てをめぐる問題への対応が求められている。幼児教育学科では、このような社会的要請に応え、幼児教育についての専門的な知識や理論を修め、実践力と「学び」の意味を探求する姿勢を身につけた幼稚園教諭の養成という学科の教育目標にもとづいて、教員養成の目的を以下のように掲げている。子どもの人権を大切に、次代を担う子どもたちの人間形成を支援する幼稚園教諭の養成をめざす。多様な保育ニーズを視野に入れつつ、子どもおよび子どもの文化の理解にもとづいた、実践的な教育や支援ができる資質能力を備えた幼稚園教諭の養成をめざす。子ども及び子どもの文化の理解に基づき、豊かな表現力とコミュニケーション能力を備えた幼稚園教諭の養成をめざす。地域密着型の体験的な学びを活かしながら、他者と協働して学び続けることのできる専門性の高い幼稚園教諭の養成をめざす。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

幼児教育学科は、教員養成の目的・目標をディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえて設定し、育成をめざす教師像である「地域社会に貢献できる教師」とともに学生に周知している（資料１－１－１）。こうした目的・目標は、毎月開催される学科会において教職員に共有されるとともに、それに沿った教職課程教育の計画が協議、立案される（資料１－１－２）。そして、幼児教育学科は、ディプロマ・ポリシーをふまえた教職課程教育を遂行するために、教職課程をとおして育もうとする学習成果（ラーニング・アウトカム）を学生に具体的に示し、教職課程「履修カルテ」を作成することにより、その学習成果の到達度を把握できるようにしている（資料１－１－３、資料１－１－４）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、子どもをめぐる環境が複雑化する中でも、子どもの心と体、人権を大切にし、子ども一人ひとりの幸せを支援するための理論的な裏づけをもった実践的学びが可能となるよう、学科会等において教職課程教育の目的・目標を共有している（資料１－１－２）。また、授業担当者会議を開催し、教職課程教育の目的・目標が達成されるよう、非常勤講師を含む全教職員間において、学科の目的・目標などを共有するとともに、学修内容の整合性、連続性について協議し、調整をはかっている（資料１－１－５）。さらに、多様なキャリアを積み重ねてきた教職員との「対話」をとおし、多様な専門領域の観点から学生が多角的な学びを深めることができるよう、少人数セミナーなどの科目を設けるなど、カリキュラムの充実もはかっている（資料１－２－６）。

〔取り組み上の課題〕

幼児教育学科は、教師、保育者をめざす者が、自らの適性や進路を考えるにあたり、教育現場における教育実践に触れることが最も重要な機会と捉えている。しかし、このコロナ禍にあって実習期間の短縮および実習園の変更、学内実習への代替などに迫られた。今後はコロナ規制が緩和される見通しであるため、そうした事態に可能な限り対処し、本学科における目的・目標を達成するために、学科内はもちろん、学科と実習園との連携や意思疎通を今以上に進めていきたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１－１－１：2 教員養成の目標　https://mimasaka.jp/about/disclosur/training/
・資料１－１－２：2022 年 10 月学科会議報告書
・資料１－１－３：教職カルテ①（学生配布用）
・資料１－１－４：教職カルテ②（学生配布用）
・資料１－１－５：令和 4 年度授業担当者会_会議議事録
・資料１－１－６：学科の特徴・特色
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/point/

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

幼児教育学科は、教職課程認定基準をふまえ、十分な教育研究業績を有し、保育所、幼稚園、小学校、施設などにおける豊富な現場経験のある教職員を配置している（資料１－２－１）。そうした学科教職員のうち、学科長、実習担当教員は、教職課程センター委員会にも出席し、全学的な教職課程の運営に関する動向の把握や学科間の教職課程の運営に関する情報を共有している（資料１－２－２）。また、学科学生による教育改善委員と連携しながら、自己点検評価を行い、教職課程の在り方を継続的に見直している（資料１－２－３）。そして、こうした教職課程の組織、運営に関する諸情報を本学 HP 上で発信している（資料１－２－４）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、２年間の教職課程をとおして学生が獲得した実践力を最終的に確認する「保育・教職実践演習（幼稚園）」の科目において、津山市こども保健部、大学附属幼稚園の協力のもと、実際の教育現場において実施している（資料１－２－５、資料１－２－６）。その指導には、元幼稚園園長と学科教職員全員があたっており、全クラスおよび少人数グループを組み合わせ、ロールプレイ、グループワーク、プレゼンテーション、模擬保育、レポート作成などの手厚い授業を実践している（資料１－２－７）。そして、それに際し、本学学修・学術情報センターとの連携のもと、情報リテラシーなど、今日の保育者に求められる ICT 機器活用能力の育成にも努めている（資料１－２－８）。また、同一法人であり､幼稚園教諭一種免許状が取得可能な美作大学児童学科教職員との合同 FD を設け、教職課程の組織力、運営力の向上をめざしている（資料１－２－９）。

〔取り組み上の課題〕

本学は、全学的に授業評価アンケートや FD、SD を実施しており、全教職員の資質、能力の向上をめざしている（資料１－２－１０、資料１－２－１１）。幼児教育学科も、こうした取り組みを生かしながら、今回の教職課程自己点検を契機とし、教職課程センターや他学科などとの連携を深め、教職養成組織としてより高い組織力、運営力を形成したい。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１－２－１：実務経験がある教員の一覧
https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/jitumukyouin/7_2022_youjikyouiku.pdf

・資料１－２－２：2022 年度第 1 回教職課程センター委員会議事録

・資料１－２－３：2023 年 1 月教育改善委員議事録

・資料１－２－４： 教員の養成に係る組織及び教員の数(R4.5.1 現在)
https://mimasaka.jp/about/disclosur/training/

・資料１－２－５：「保育・教職実践演習（幼稚園）」シラバス
シラバスは、シラバス検索システム（https://mimasaka.cloud-syllabus.com/）で閲覧可能。以下同様。

・資料１－２－６：附属幼稚園での観察実習・学内模擬保育
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-ducation/topics/art11853

・資料１－２－７：令和４年度「保育・教職実践演習（幼稚園）」授業計画

・資料１－２－８：「情報リテラシー」シラバス

・資料１－２－９：幼教・児童合同ＦＤ議事録

・資料１－２－１０：令和３年度美作大学短期大学部自己点検・評価報告書 p.79-86
https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/self-assessment-report-junior-college-2021.pdf

・資料１－２－１１：8.授業評価アンケート結果について
https://mimasaka.jp/about/disclosur/other/

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

幼児教育学科は、教職課程で学ぶにふさわしい学生像を、アドミッション・ポリシーなどをふまえて作成し、学生募集に取り組んでいる（資料２－１－１）。こうした学生募集の方針は、本学学生募集広報室、大学広報室をはじめ、就職支援室など関係課室とも共有し､高等学校や大学受験前の高校生に理解してもらえるよう努めている(資料２－１－２)。この方針は、オープンキャンパスなどにおいて周知されることはもちろん、学科会議および本学職員会議においてもアナウンスされ、全学的な理解がはかられている。そして、これにより、幼児教育学科は、ディプロマ・ポリシーによりながら、適正規模の学生を受け入れている（資料２－１－３）。

また、幼児教育学科は、カリキュラム・ポリシーをふまえ、基礎教育科目や専門教育科目を適切に配置することにより、子どもの理解をより深めるためのカリキュラムを編成している（資料２－１－４）。その際、「履修カルテ」を活用し、学生の適性や特質に応じた教職指導を実施している（資料２－１－５、資料２－１－６）。そして、「幼児教育学科カリキュラムツリー」を本学 HP 上やシラバスにおいて公開し、学生が教職課程における各科目の位置づけや関係性を把握したうえで、教職課程諸科目を履修することができるようにしている（資料２－１－４)。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、教育実習履修のための履修基準を設けている（資料２－１－７)。そのため、成績不振などの理由により、この基準に抵触し、教育実習を履修できない学生もいる。こうした事態に対して、幼児教育学科は、１クラス 25～36 名程度の担任制と、１グループ５～８人程度のセミナー制を導入して「履修カルテ」を活用した教職指導や教職に就職予定の上級生と教職をめざす下級生との交流の機会を設けることにより、学生へのサポートや在学生の教職への意欲を維持、向上に努めている（資料２－１－８)。

〔取り組み上の課題〕

幼児教育学科は、今後学生募集に際し、その伝統や授業内容、就職率について、高等学校の進路担当教員や学級担任に丁寧な説明を心がけ教職課程をめざす学生の確保に努めていきたい。50 年以上の歴史ある本学科の OB、OG の多くが、中四国を中心に保育、教育、福祉の現場で活躍している。そうした OB、OG がいる就職先において、さらに学生が就職したり、あるいは保育職に関心のある中高生がボランティア活動を行ったりすることで、本学科とのつながりが生まれると考えられる。また、在学生に対しても、OB、OG と交流する

機会を設けることにより、保育職への動機づけと、その維持、向上に努めていきたい（資料２－１－９）。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料２－１－１：2023 年度入学生用　大学パンフレット pp57-58
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-&cs=1&FL=0
・資料２－１－２：2023 年度入学生用　大学パンフレット pp61-64
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-&cs=1&FL=0
・資料２－１－３：学生状況
https://mimasaka.jp/about/disclosur/student-situation/
・資料２－１－４：幼児教育学科カリキュラムツリー
https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-infant-education-2023.pdf
・資料２－１－５：履修カルテ①（学生配布用）
・資料２－１－６：履修カルテ②（学生配布用）
・資料２－１－７：幼児教育学科実習基準（2022 年度版）
・資料２－１－８：「実習交流会」「就職・進学内定者による相談会」実施
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/topics/art16655/
・資料２－１－９：保育園の役割と保育の魅力・心持
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/topics/art138/

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

幼児教育学科は、クラス担任制を導入し、学生の教職への意欲や適性を把握したうえでの組織的なキャリア支援を行っている（資料２－２－１）。具体的には、個々の学生について担任とセミナー教員との情報共有や、学期ごとの個人面談などである。また、学内においては就職支援室など、学外においては地域の保育協議会などと連携し、教職に就くための各種情報を提供している（資料２－２－２）。さらに、キャリア支援を充実させるため、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材などとの連携をはかっている（資料２－２－３）。具体的には、保護者や卒業生からの講話を含めた就職懇談会や、教職への就職が決定した上級生から下級生に対する講話などである。また、就職支援室と共同して開催する就職懇談会においては、保護者も参加する機会を設け、就職に関する情報提供、教員

採用試験などについても説明している。これにより、教員免許状取得者や教員採用試験合格者が増加し、とくに保育、教育、福祉関係への就職率は、ほぼ 100％である（資料２－２－４）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、1 年次から地域の子育て支援センターや親子を招いた子育てイベント、附属幼稚園での観察、参加実習などをとおし、学生が子どもたちと関わる経験を積み重ねることができるカリキュラムを編成している（資料２－２－５）。これにより、学生が入学前から抱いていた教職への意思をより強固なものとするよう努めている。

〔取り組み上の課題〕

教職に就いたものの、就職先との不適合により本学科卒業生のごく一部に早期離職者がいることは事実である。今後は、就職支援室との連携および就職先や卒業生との交流の機会を増やすことなどをとおして、卒業生と就職先との不適合、早期離職防止のためのキャリア教育を一層充実させていく必要があると思われる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料２－２－１：幼児教育学科の特徴・特色
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/point/
・資料２－２－２：令和 4 年度　津山市幼稚園教育実習反省会資料
・資料２－２－３：幼教懇談会学科別プログラム 2022
・資料２－２－４：専門職への就職率(2016 年度～2019 年度)
https://mimasaka.jp/career-support/employment/
・資料２－２－５：わくわく　どきどき　木育あそびひろば
https://mimasaka.jp/news/event/art14971/

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目　３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

幼児教育学科は、年間 48 単位を上限とするキャップ制のもと、学科の教育目的・目標をふまえ、教員免許状取得のために履修すべき諸科目の系統性を確保しながら、教職課程コア・カリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している（資料３－１－１）。さらに、近年の学校教育ニーズに応えるべく、ICT 機器の活用や、アクティブ・ラーニング、グループワークを促す工夫により、保育者に求められる情報活用能力、課題発見・課題解決能力、コミュニケーション能力および協働性などの力量を育成している（資料３－１－２）。また、２年間に合計９回の保育実習と幼稚園教育実習（観察・参加実習を含む）があるが､それら全てに履修するために必要な履修基準を設定している(資料３－１－３)。履修にあたっては、実習担当教員と学科教職員が学生の諸状況を把握したうえで個々に適したきめ細かい指導を行うとともに、「履修カルテ」などを活用した指導を行っている（資料３－１－４、資料３－１－５）。そうした指導の成果の蓄積を「保育・教職実践演習（幼稚園）」などに活かしている（資料３－１－６）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、シラバスにおいて、各科目の学修内容や到達目標、評価方法などを明示し、初回授業で学生にこれらを説明している（資料３－１－６）。また、近年高度化、複雑化する教育実習の内容に対応できるよう、入学当初からから学内模擬保育や、保育ボランティア、附属幼稚園での観察、参加実習、地域でのボランティア活動などを実施している（資料３－１―７）。

〔取り組み上の課題〕

本学科学生は、入学前から ICT 機器に慣れ親しんでいる。しかし、教育実習に際し、その求められる活用能力や方法は多様である。そのため、幼児教育学科教職員は、教育・保育の場で求められる情報活用能力や方法を知るとともに､学生にその情報を授業等で伝え、学生が ICT 機器を活用することができるための教育に積極的に取り組んでいくことが必要と思われる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料３－１－１：2022 年度版　美作大学短期大学部　履修要項　p21.22「1. 教養・基礎教育科目、2. 専門教育科目」
https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/tanndai2022.pdf

・資料３－１－２：「保育内容人間関係」シラバス

・資料３－１－３：幼児教育学科実習基準（2022 年度版）
・資料３－１－４：履修カルテ①（学生配布用）
・資料３－１－５：履修カルテ②（学生配布用）
・資料３－１－６：「保育・教職実践演習（幼稚園）」シラバス
・資料３－１－７：「幼児教育学科、附属幼稚園でレクリエーションを披露」
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/topics/art16640/

基準項目　３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

幼児教育学科は、入学当初から取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設けている。学外においては、たとえば附属幼稚園でのボランティアや観察実習などを実施している（資料３－２－１）。さらに、学外においては、地域の親子が参加できる子育て支援に関する親子クラスの企画および実践なども実施している（資料３－２－２）。こうした様々な体験活動に際しては、いずれにおいても事前、事後オリエンテーションを行い、学生に省察の機会を提供するよう努めている（資料３－２－１）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科は、本学の近隣に位置する津山工業高等専門学校との高大連携に配慮した教育内容を設けており、その一例として津山高専ジュニアドクター育成塾などをあげることができる（資料３－２－３）。また、地域の保育所や子育て支援センターと連携した実践的な課題への取り組みなども行っている。具体的には、木育ひろばや子育てカレッジなどである。こうした活動により、学生が地域の子どもの実態や学校園における教育実践の最新事情を学ぶ機会を設けている。また、キャリア教育の一環として、地域で活躍する教員（本学科卒業生）やマナー研修講師、社会保険労務士らを招聘し、キャリア構築や早期離職を防止するための講話の機会を設け、学生の専門性に関わる意識向上をはかっている（資料３－２－４、資料３－２－５）。

〔取り組み上の課題〕

幼児教育学科のみならず、本学教職課程センターの課題として、さらなる近隣教育委員会との組織的な連携体制や、教育実習協力校との教育実習をとおした協力体制の構築があげられる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料３－２－１：附属幼稚園観察実習ノート
・資料３－２－２：みまっぱ子育て通信第 4 号

・資料３－２－３：第 61 回中四国学生研究大会（美作大学短期大学部幼児教育学科）

・資料３－２－４：保育者をめざす学生のマナーと心もちに関する講義

https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/topics/art6936/

・資料３－２－５：OB による社会福祉施設の役割に関する講義
https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/infant-education/topics/art5843/

Ⅲ．総合評価

幼児教育学科では、授業担当者会議によって非常勤を含めた全教職員間における教職課程に関する共通理解をはかっている。今後は、実習園との連携や意思疎通を今以上に進めていく必要がある。FD、SD は、全学的な取り組みだけでなく、教職課程の組織としてより高い組織力、運営力を形成したい。

幼児教育学科は、適正な規模の教職課程学生を受け入れている。教職課程の履修指導に際しては、「履修カルテ」を活用し、クラス担任とセミナー制によって学生の適性や資質に応じた指導を実施している。

幼児教育学科は、就職支援室や地域の保育協議会などと連携し、教職に就くための各種情報を提供している。保育、教育、福祉関係への就職率は、ほぼ 100％である。しかし、卒業生のうちに早期離職者がおり、今後は、卒業生と就職先との不適合、早期離職防止のため、たとえば今まで以上に卒業生の講話の機会を増やすなどといったキャリア教育を一層充実させる必要がある。

幼児教育学科は、近年における学校教育のニーズに対応し、ICT 機器の活用やアクティブ・ラーニングなどを促す工夫により、保育者に求められるコミュニケーション能力や協働性などの力量を育成している。しかし、保育の現場で求められる活用方法は多様である。今後は就職後に求められる情報活用能力育成のための教育に積極的に取り組む必要がある。

幼児教育学科は、地域と連携した様々な体験活動を通して、地域の子どもの実態や学校園における教育実践の最新事情を学ぶ機会を設けている。今後は、近隣教育委員会などとの組織的な協力体制の構築が必要とされる。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程センターは、令和４年６月に学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを教職課程センター委員会において決定した。その後、教職課程センター委員会において、自己点検評価の実施方針・実施手順を決定した。自己点検評価は、教職課程センター委員会が行い、目標は教職課程の現状を把握・認識した上で自己評価を行うこととする。その実施期間は令和４年度とし、対象とする領域・事項は「全国私立大学教職課程協会」の手引きを参照する。各学科に原稿の作成と資料の収集を依頼し、年度末までに報告書を作成した。

Ⅴ　現況基礎データ一覧　　令和４年５月１日現在

法人名	学校法人 美作学園
大学・学部名	美作大学短期大学部
学科・コース名（必要な場合）	幼児教育学科
１　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等	
①　昨年度卒業者数	６３
②　①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	５４
③　①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）	６０
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	5
④のうち、正規採用者数	2
④のうち、臨時的任用者数	3
２　教員組織	

	教授	准教授	講師	助教	その他（　　）
教員数	4	2	3	1	
相談員・支援員など専門職員数					